

## 条例案に対する意見等への対応状況(佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例)

令和4年6月20日現在

所属等	意見等	意見等への対応
令和3年10月／庁内	・似たような用語、あるいは市民にとって目新しい用語がいくつかある(SDGs、パリ協定、地域循環共生圏、ステークホルダー等)ので、「定義」の条を入れた方がよい。	<p>・第2条に次のとおり定義を追加しました。</p> <p>(定義)</p> <p>第2条 この条例において、次に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。</p> <p>(1) 地域循環共生圏 各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方であり、地域でのSDGsの実践(ローカルSDGs)を目指すものをいう。</p> <p>(2) SDGs Sustainable Development Goals の略であり、2015年9月に開催の国連持続可能な開発サミットにおいて採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた2030年までに達成すべき国際社会の共通目標をいう。</p> <p>(3) パリ協定 2015年12月にフランス・パリで開かれた第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で採択された、2020年以降の地球温暖化対策を定めた国際的な枠組みをいう。</p> <p>(4) ステークホルダー 市がSDGsの達成に資する施策を推進する過程で関わる市民、民間企業、民間団体、NPO、行政機関その他の多様な主体をいう。</p>

条例案に対する意見等への対応状況(佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例)

令和4年6月20日現在

所属等	意見等	意見等への対応
令和3年10月／庁内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国内でも複雑化する環境、経済及び社会の課題を踏まえ」など、「環境」がいくつか出てくるが、「自然環境」が正しいのでは？</li> <li>・「社会環境」「経済環境」という言葉もあるので、使い方は丁寧にされた方が良い。</li> </ul>	<p>・環境省の第五次環境基本計画では、持続可能な社会に向けた基本的方向性において、「SDGsの考え方も活用し、<u>環境・経済・社会</u>の統合的向上を具体化」等としているほか、内閣府のSDGs未来都市の選定趣旨において、「<u>経済・社会・環境</u>の三側面の統合的取組による相乗効果、新しい価値の創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を選定」等としているなど、一般化されており、ここでいう「環境、経済及び社会」の「環境」は、このまま「環境」とさせていただきます。</p>
令和3年10月／庁内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域循環共生圏とは、自然環境などの地域資源を最大限発揮しながら自立・分散型社会を形成すると同時に、各地域の特性に応じて資源を補完し支え合い、より良い地域社会の実現を目指すものである。」この用語だけ条文で説明するのは違和感がある。「定義」の条を設定し、そこで説明した方が良い。</li> </ul>	<p>・第2条に定義を追加し、「地域循環共生圏」について記述しました。</p>
令和3年10月／庁内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会や環境等に適応しながら形成された農業」は、「社会情勢や自然環境等に適応しながら営まれた農業」にした方が良い。</li> </ul>	<p>・農林水産省では、「世界農業遺産(GIAHS)とは、<u>社会や環境</u>に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)であり、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定されます。」としているため、ここでいう「社会や環境」は、このまま「社会や環境」とさせていただきます。</p> <p>・また、「形成された農業」は、「営まれた農業」に修正します。</p>

**条例案に対する意見等への対応状況(佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例)**

令和4年6月20日現在

所属等	意見等	意見等への対応
令和3年10月／庁内	・「最上位計画となる「佐渡市総合計画」を策定し」は、「上位計画である「佐渡市総合計画」を策定し」にした方が良い。	・「最上位計画の「佐渡市総合計画」を策定し」に修正します。
令和3年10月／庁内	・「ローカルSDGsとも言われる地域循環共生圏やSDGsの考え方を理解し」は、重複して見えるので、「ローカルSDGs」は削除した方が良い。	・第2条で「地域循環共生圏」について定義したため、「ローカルSDGsとも言われる」は削除します。
令和3年10月／庁内	・「持続的な地域社会を築くため」は、「持続可能な地域社会を築くため」にした方が良い。	・「持続可能な地域社会を築くため」に修正します。
令和3年10月／庁内	・(理念)第2条は、理念ではなく、基本理念とした方が良い。	・「理念を基本理念に改め、この条例の推進に当たっては、次に掲げることを基本理念とする。」に修正します。
令和3年10月／庁内	・「家庭、職場、地域等での日常生活において」は、「家庭、地域、職場等での日常生活において」とした方がよい。	・「家庭、地域、職場等での日常生活において」に修正します。
令和3年10月／庁内	・事業者もステークホルダーに定義付けされているが、第5条において自身が自身に協力するように解釈される恐れはないか。	・第2条で「ステークホルダー」について定義したため、ステークホルダーに係る全体の記述を見直します。
令和3年10月／庁内	・「ステークホルダー」が良いのか。「関係者等」などが適当な日本語がないのか。	地域循環共生圏やSDGs未来都市等の国の考え方においても、ステークホルダーを用いるケースが多いため、第2条に「ステークホルダー」を定義し、使用させていただきます。
令和3年10月／庁内	・「ローカルSDGsとも言われる地域循環共生圏やSDGsの考え方を理解し、共有するとともに」を、例えば、「SDGsや地域循環共生圏の考え方を理解し、将来あるべき姿や希望を共有するとともに」としてみてはどうか。冒頭にてSDGs→地域循環共生圏の順番で記載されており、「SDGs」の単語が重複していること、また共有するものを具体的に記載した方が良い。	・「SDGsや地域循環共生圏の考え方を理解し、将来あるべき姿や希望を共有するとともに」に修正します。

**条例案に対する意見等への対応状況(佐渡市地域循環共生圏の創造による持続可能な島づくり推進条例)**

令和4年6月20日現在

所属等	意見等	意見等への対応
令和3年10月／庁内	・第1条の地域循環共生圏とSDGsの順番を同様に入れ替えた方が良い。	・順番を入れ替えます。
令和3年10月／庁内	・第1条において、市民、事業者等を“ステークホルダー”としてまとめている一方、その埒外として「行政」を位置付けるのは、ともすれば対立構造を想起することから、「行政」もステークホルダーに入れるべきではないかと考えられる。	・第2条で「ステークホルダー」について定義し、ステークホルダーに係る全体の記述を見直します。
令和3年10月／庁内	・「市及びステークホルダー」は、「ステークホルダー」にした方が良い。。理由は上に同じ。	・第2条で「ステークホルダー」について定義し、ステークホルダーに係る全体の記述を見直します。
令和3年10月／庁内	・「市及びステークホルダーが実施する施策に協力するよう努める」は、「実施される施策に協力するよう努める」にした方が良い。理由は上に同じ。	・「実施される施策に協力するよう努める」に修正します。
令和3年10月／庁内	・第7条第2項は、第1項とほぼ同旨であることから削除でよいと思料する。	・第2項は削除します。
令和3年12月／さど未来創造・戦略推進会議参加者	・世界モデルとなる決意を入れていただきたい。	・前文において、「離島佐渡から日本の「SDGsモデル」を世界に発信していくことを決意して、この条例を制定する。」を記述します。
令和3年12月／さど未来創造・戦略推進会議参加者	・現状を把握できるデータ取りは市の施策で行うと思うが、市の責務における「目的達成のために必要な施策」の中で読み取れるならこれで良いと思います。	・市が取得すべきデータであれば、市の責務において行います。
令和3年12月／さど未来創造・戦略推進会議参加者	・条例案自体の内容は問題ないと思料する。問題は、条例案の周知・発信と運用にあると考える。条文中の「市の責務」「市民の役割」「事業者等の役割」を佐渡市内外に継続的に周知・発信し、SDGsの推進に資する取組の必要性の浸透と実践を図ることが重要と考える。	・ご指摘のとおり周知等に努めてまいります。

令和4年度も、さど未来創造・戦略推進会議等において条例案について、令和5年3月までに制定に向けた議論を重ねる。